

中学 2 年	単元名	「字のない葉書」 向田邦子	4 時間
単元の目標	筆者である「私」の視点で書かれた文章を、父の立場からリライトするという活動を通して、父の心情を想像させ、読みを深めることができるようにする。		
日本語の目標	<ul style="list-style-type: none"> リライト文章に書かれていることをもとに、「書かれていないこと」を想像、つまり主人公となる人物の心情を想像し、読みを深めることができるようにする。 意見交流－グループでリライトを読み合い、自分の文章の評価を受ける。自らの書いたものを他者と比べることで、意欲的に仲間の意見にも耳を傾け、自分の考えをより明確なものへとしていく。 		
学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 各ワークシートの「学習の目標」を参照。 		
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> 物語の登場人物の言動の意味などを考え、父の人柄や心情を読み取る。また、グループ活動を通して、物語のクライマックス部分を探し出し、“どうしてそこを選んだのか”を筋道立てて自分の言葉で説明できるようにする。 生徒が主体的に読み、第三者として書かれている父親の立場からのリライトをすることで自分の考えを表現できるようにする。 		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 父親の心情を想像して読むことができたか。 父親の立場に立ち、その人物になりきってリライトをすることができたか。 		

学習活動計画

時	内容	活動	ポイント
0	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 音読と初発の感想 「大体的内容をとらえる」(デジタル教科書より)。 本文中のわからない語句について調べておく(ワークシート①)。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 初発の感想は共感ばかりでなく、疑問や反感など持つことの大切さも伝えておく。 ❖ 音読と共に、範読の音声も 구글 クラウドを通って投稿しておく。 ❖ 日本語の不得意な生徒のため大まかな内容をつかめるワークシートを 구글 クラウドを通して投稿しておく。
1	導入と前半部分を読み、父親の人物像を読み取る。	<p>(導入 10 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> エッセイが書かれている時代背景—昭和初期の庶民の生活ぶりや太平洋戦争下の市民の生活ぶりを説明する。そしてデジタル教科書にある“疎開中に出された手紙”の実物を見ながら、エッセイ中の登場人物の気持ちが想像しやすくなるような手助けをしておく。 教師が自分の家族についてのエピソードを披露。その内容から、生徒に、教師の家族の人柄や心理を想像してもらおう。また自分の家族の話の思い思いに発言する機会を与える。 <p>(前半部分の読解)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文全体を「父から筆者への手紙」の前半部分と、後半の「父が妹に持たせたはがき」としてとらえさせる。 前半部分のみ指名読み。この時、父親の人柄が表れている語句にハイライトをするよう指示。 筆者により描かれた父親の“日常の様子”、そして筆者に送った“手紙の中に表れる”父親の言葉から、父親の人柄を読み取る(ワークシート②) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 手紙の中の父 一点一画もおろそかにしない / 大振りの筆 / 向田邦子殿 / 貴女 / 折り目正しい時候の挨拶 / 字引 / 三日に上げず ➢ 日常の父の様子 暴君 / 罵声 / げんこつ / ふんどし / かんしゃく 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 教師の家族の話聞きながら、自分たちの家族を思い浮かべることで、作品に興味を持って読み、かつ意欲的な活動につなげたい。 ❖ 作品の語句などから、父の人柄を読み取っていく。手紙の中の父親と、筆者が日常目にする父の姿にギャップに興味を抱くことで、人物像を立体的にしていきたい。

2	<p>後半の“末の妹が学童疎開したエピソードからわかる父親の人物像を読み取り、心情を想像する。合わせて家族の心情を読み取りながら、ストーリーのクライマックスを見つける。</p>	<p>(後半部分の読解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 末の娘の学童疎開を決めたときの父母の心情を想像する。(ワークシート③)両親の淡々とした言動の中に潜む末の娘への深い愛情に気づかせたい。 ● 疎開先で日々変化していく妹の様子を、葉書に書かれた○の大きさや×から読み取る。 ● 妹が家に帰ってきたときの一連の描写から、クライマックスにあたる部分を見つけ出す。隣の席、または小グループを作り、お互いの考えを共有する。この時、意見を一本化する必要はない。また、あえてクライマックスの一文を選ぶとしたらどの文章になるかを考えさせる。なお、すべての自分の意見には、どうしてそのような考え方に至ったのか、理由づけも併せて話し合いをし、発表することとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 前半部分と違って、人柄を直接表現したり、心情を述べる表現がないが、その言動から末の娘への愛情を想像することができる内容になっているので、そこを読み取る。 ❖ クライマックスを探す方法としては、例えばこの物語をマンガで書くとしたら、どの部分が一番大きなコマ割りとなるのか、どんな絵柄になるのか。もしくはドラマの撮影をしたとしたら、どの部分にフォーカスを当てるかなど、クリエイターになった気持ちで考えさせ、それぞれの意見交換をする。
3	<p>筆者の文章を父からの立場で書き換えることで、父親の心情を想像する。 リライト I</p>	<p>(リライトを理解する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 父親の立場からリライトすることによって、父親の心情に迫るという学習の目標を認識させる。 ● 簡単なリライトの問題をクラス全員で行いながら、リライトの仕方のアイデアを得る。 ● 今回取り組むリライトの2つのポイントを説明する(ワークシート④)。その後、作品の一部を教師が書き換えたリライト文と原文を生徒自身が比較検討する。リライトのより具体的な方法を理解する。 <p>➤ ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 父親の視点から出来事が書かれているか。 ✓ 本文に書かれていない父親の心情を想像して自分の言葉で書き加えられているか。 <p>➤ ワークシートにあるリライト文の、「父親の視点から書かれているため、言葉が置き換えられている部分」に黄色のハイライトを、「書かれていない父親の心情を想像し、書き加えられているところ」に緑のハイライトを引かせる。</p> <p>(リライトに挑戦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 妹が学童疎開をする準備をする両親の様子が書かれた場面を生徒自身にリライトさせる(ワークシート⑤)。 ● 書き出しを設けることで、書き始めの抵抗感をなくす。 ● まずは父の視点から出来事が書かれていれば第一段階は OK ● 心情を想像して書き加えられるよう“ヒントカード”を提示。思考の手立てとする。(ヒントカードはあらかじめ紙に書いておき、黒板に貼りだしていく。) ● 隣の席や前後の席のクラスメイトのリライトを読み合い、意見交換。 ● 最後に教師が PC を使って、生徒から意見を出してもらいつつ、モデルになるようなリライト文を打ち出す。文章が出来上がっていく様子をプロジェクターで映し出し、クラスで共有。 ● 別の部分をリライトすることを宿題とし、翌週にグループで評価し合うことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 本文のどの部分がリライトではどのように変わっているのか、ハイライトで線を引かせながら比較することでリライトの方法を理解する。 ❖ 生徒のリライトでは、幼い末っ子を疎開に出すという父親の心情を想像しリライト文に反映できるようにする。
	家庭学習課題	宿題—リライトに挑戦しようⅡ (ワークシート⑥) (漢字、国語のワーク—毎週の課題)	
4	<p>筆者の文章を父からの立場で書き換えることで、父親の心情を想像する。 リライトⅡ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿題のリライト文をグループで発表しあう。 ● それぞれのリライト文で工夫されている部分や自分にはない発想の部分を見つけ評価し合う。なぜそのような父の心情を想像できたのか、理由も共有しながらグループで交流する。 ● グループでの話し合いをクラスで発表。 ● 作品を通して筆者が伝えたかったことをクラスで意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 宿題のリライト文をグループ内で読み合う。各生徒がそれぞれ違う色のペンを持ち、交換しながらこれはいいと思ったリライト部分を○で囲み、なぜいいと思ったのかをプリントの余白に書き込ん

			<p>でいく。他の生徒の作品を評価をすることで学び合いをする。</p> <p>❖ 全員が見終わったら、グループごとに作品を並べて意見交換する。その際に、「どうしてこの表現にたどり着いたのか」を本人にインタビュー。その思考過程を聞き出すことで、リライト作品の内容理解をさらに深めていく。書いた本人は、自分の考えを、筋道を立てて説明できるよう、用意しておく。</p>
--	--	--	---